

東大病院 DMAT 災害時における医療支援活動等報告書
(能登半島地震 DMAT 6 次隊 (東京都第一チーム))

1. 活動期間：令和 6 年 1 月 18 日～令和 6 年 1 月 20 日 (1 月 17 日夕方に引き継ぎ)
2. 活動場所：能登中部保健医療福祉センター内 能登中部保健医療福祉調整本部
(1 月 17 日引き継ぎのみ公立能登総合病院内 能登中部 DMAT 活動拠点本部)
3. 派遣者：5 名

災害医療マネジメント部 副部長 湯澤絢子
救急集中治療科 専攻医 中野裕幸
看護部 副看護師長 新井喜洋
看護部 看護師 野田佳奈
感染対策センター 医療技術補佐員 鈴木理恵

4. 活動内容

1 月 17 日 (水)

早朝 5 時に東大病院を出発し、16 時公立能登総合病院に到着。能登中部 DMAT 活動拠点本部にて、到着受付後、同本部業務に振り分けられる。業務の引き継ぎを受け活動終了。同本部は翌日より能登中部保健医療福祉センター内に移動し、名前も能登中部保健医療福祉調整本部へと変更になる。



1月18日（木）-20日（土）

能登中部保健医療福祉調整本部で本部活動。医療機関（クリニック、病院）の現状把握と物資調達、病院の受診者数と新規感染症患者数の把握、本部内の物資管理を担当した。

現状把握と物資調達では EMIS からの情報の確認、不足部分は電話や支援に入っているチームより情報を収集。そこで得た物資需要や、随時入る依頼に対し物資の調整を行なった。給水や燃料など病院機能に大きく影響を及ぼす資源供給も担っており、エラーの起きにくいシステム作りを心がけた。

地域内の病院の受診者数と新規感染患者数を把握し、県の保健医療福祉調整本部に連日共有した。

物品管理では、DMAT 管理部物品と県の物品の管理の統合へ向け保健センターと調整を開始した。また、活動期間中に発生した新型コロナウイルス感染者への対応に対し、感染対策資材の提供を行なった。今後も感染対策資材の需要があると考え、物品の入手方法や感染廃棄物の扱いなどを検討し定めた。

上記業務を、今後 DMAT から日本医師会の運用する JMAT や地域の行政に引き継ぐために、業務手順のスリム化に努めた。



以上